

<p>所属名</p> <p>教育相談センター</p>	<p>研究会議名</p> <p>カウンセラー研究員による研究</p>
<p>研究主題</p>	<p>個を大切にした日常的な教育相談についての一考察 ～カウンセリングマインドを生かした学年の取り組み～</p>
<p>資質・能力 育成を目指す</p>	<p>「生徒が、自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る」力</p> <p>(平成29年度告示「中学校学習指導要領」より引用)</p>
<p>研究内容</p>	<p>平成29年に文部科学省の教育相談等に関する調査研究協力者会議より報告された「児童生徒の教育相談の充実について」(概要)の第2章「今後の教育相談の在り方」において次のように記されている。未然防止、早期発見及び支援・対応等への体制構築について、「不登校、いじめや暴力行為等問題行動、子供の貧困、児童虐待等については、事後の個別支援への対応・支援のみではなく、未然防止、早期発見、早期支援・対応、さらには事案が発生した時点から事案の改善・回復、再発防止まで一貫した支援に重点をおいた体制づくりが重要」と述べている。</p> <p>一方で、自分の勤務する中学校での担当学年生徒への教育相談事前アンケートの結果の中に、「先生と気軽に話や相談できる」を問う項目において、「そう思う」といった肯定的な意見の割合は多いものの、「そう思わない」といった否定的な意見の割合も少なくないという状況が示されていた。このことから、教師に対して距離感を感じている生徒が少なからず存在することが想定される。さらに「自分のことを嫌いになることはない」や「学校でイライラするときはない」との項目において、「そう思わない」という返答が約4割存在することが分かり、日常の学校生活において、自己肯定感が低くストレスを感じている生徒も少なくないという現状が露呈された。この現状を深刻化させないためには、教師による日常的な教育相談や個を大切にしたり関わり、対応が急務であると考えられる。そこで本研究では、学年生徒の問題行動や不登校の未然防止のために、カウンセリングマインドを生かした学年の取り組みについて検証したい。</p>